

<様式1>

令和3年度 さいたま市立内谷中学校 自己評価書

校長 高山 俊介

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) ICTを活用したアクティブ・ラーニングを推進し、生徒の学力及び体力の向上、豊かな感性の育成を図る。
学習評価の工夫・改善を通して、自らの指導力と生徒の学力の向上等を図る。

—生徒の学力・学習状況、特別の教育課程の実施状況、教員の授業にかかわる評価

- (2) 全教職員が、共通認識のもと同歩調で指導や対応にあたる。生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導や教育相談の一層の充実を図る。いじめの撲滅を図る—いじめの防止等、生徒指導・教育相談体状況
- (3) 義務教育9年間を見通した一貫性のある学習指導や生徒指導、教育相談等を推進する。—小・中連携の状況
- (4) 円滑な教育活動に資する指導体制を構築し、特別支援教育の充実を図る。—個に応じた指導
- (5) 気持ちのよいあいさつができ、時間を守り、一生懸命清掃活動に取り組む生徒の育成を図る。

—生徒の学校生活の状況

- (6) 温かい人的環境、誠実な言語環境を整備し、未来を拓く学校づくりを推進する。生徒の事故やケガを減少させるための指導を推進する。—児童生徒の安全・安心
- (7) 学校日より、学校ウェブページ、学校安心メール、PTA情報サイト等を活用し、教育活動の様子や成果を、保護者、地域に積極的に発信する。—地域と連携した学校安全
- (8) 教育の質を落とさずに、教職員の負担軽減と在校時間の縮減を図る。—ワークライフバランスの意識

2 評価結果について

- ・生徒の学力・学習状況、特別の教育課程の実施状況、教員の授業にかかわる評価については、全ての教科等で分かりやすい授業、話し合い活動の充実、ICTの活用等の実践に取り組んだ。各項目における生徒の肯定的回答は以下のとおりであり、分かりやすく工夫した授業が展開されていると考えられる。「分かりやすい授業(93.7%)」、「話し合い、発表の充実(95.8%)」、「タブレットPCの活用(85.5%)」また、「ALTや複数の教員によるなどチーム・ティーチング(85.1%)」、「人とのかわり(94.9%)」から、G・S科や『潤いの時間』においても、分かりやすく充実した授業が展開されたことが窺える。
- ・いじめのない学校づくりについて、「一人ひとりの個性が認められ、差別やいじめがなく思いやりのある友達が多い」に対する生徒の肯定的回答が94.9%と、昨年度に比べて9ポイント以上、上昇した。また、「先生は、悩みや相談に親身になって対応してくれる」に対する生徒の肯定的回答が97.5%となり、一人ひとりに寄り添った生徒指導・教育相談を行うことができたと考えられる。また、小学校への乗り入れ授業を実施の中で得られた内容(発達段階に応じた指導の在り方や小学校における指導の状況等)について校内研修等で情報共有するとともに、小学校教員とのチーム・ティーチングにより小学校教員のきめ細かな指導力を生かした授業を実施したことで、互いの指導力向上に資する取組となった。
- ・特別支援学級の教育環境整備やICTを活用した個別最適な授業の実施とともに、特別な教育的支援を含め、個々の生徒の実態に合わせた指導を実施するなど、本校における特別支援教育の指導体制を構築することができた。
- ・生徒の学校生活について、「落ち着いた学校生活(89.5%)」、「安全・安心な教育環境(94.6%)」の項目で、保護者の肯定的回答の割合が高く、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ安全・安心な学校づくりに向けた取組が評価されたものと考えられる。また、各種たよりのほか、学校安心メールやPTA情報サイト等の活用により、オンラインによる欠席連絡、体育祭ライブ配信など、学校と家庭との連絡体制や教育活動に関する情報発信について、新たな取組を実施することができた。
- ・会議体の精選や、会議資料のペーパーレス化など業務の見直しを行ったことで、会議時間や紙の削減、生徒と向き合う時間の確保につながった。また「ワークライフバランス」に関して6割を超える職員が肯定的回答をした。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

ICTを活用した授業改善や個別最適な学びの推進に加えて、安らぎのある、安全・安心な教育環境の整備により生徒の学力及び体力の向上、豊かな感性の育成を図る。また、学校・家庭・地域の連携・協働の一層の充実により、コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校づくりを推進する。